

## 第 1 1 回 県政 ひざづめ 談議 結果 概要

○開催日時：平成 2 0 年 8 月 2 7 日 1 4 : 0 0 ~

○開催場所：昭和町立児童センター「ゆめてらす」

〔司会〕

皆様大変お待たせいたしました。

ただいまから知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

今日の進行役を務めさせていただきます、県の広聴広報課長、田中でございます。よろしく願いいたします。

それでは、最初に横内知事からごあいさつをお願いいたします。

〔知事〕

どうも皆さん、それぞれお忙しい時にお集まりをいただきまして、本当にありがとうございました。今日は『ひざづめ談議』ということで、皆さんからいろんなご意見を聞かせていただきたいと思いますと思ってお集まりをいただいたわけでありまして。

皆様方はそれぞれの団体、あるいはNPO法人に所属をされて、子育てをするお母さん方を助けておられる、そういう活動をしていただいているわけでありまして。

子育てをする母親の負担は非常に大きなものでして、かつて私どもが子どもの頃には大体家庭にはおじいさん、おばあさんがいたり、近所にはおじさん、おばさんがいたり、そして兄弟も、子どもも周りに多かつたし、親が心配しなくても自然に子どもは育ったものでありますけれども、今は核家族化をし、お母さまが一人で子育てをしなければならない、母親の負担が非常に大きいと思うわけでありまして。

そういう中で、皆様方が子育てをする母親を支えておられるというのは、大変に意義のある活動だというふうに思っております、我々県といたしましてもできるだけの応援をしていきたいと思っております。

今日は日頃そうした活動を通じて色々とお気付きの点がございましたら、ざっくばらんに、どんなことを言っても、怒られるとか、恥ずかしいとか、そんなことはないわけですので、思ったままを、ありのままをお知らせいただければありがたいと思っております。そのことが私どもが仕事をし、また皆様のお役に立てるように県の仕事を改善していくうえで、大事なことでありますので、どうかよろしく願いいたします。

〔司会〕

どうもありがとうございました。

本日出席しております県と町の担当者を紹介させていただきます。

まず、県で少子化対策を担当しております横山理事であります。

それから市川児童家庭課長でございます。

それから町の長瀬福祉課長でございます。

今日は『充実した子育て支援をめざして』というテーマであります。ただ、福祉に限らず、医療だとか、それから女性の働きやすい環境づくりとか、そういうことでも結構ですので、是非横内知事と意見交換をしていただきたいと思いますと思っております。よろしく願いいたしま

す。

では発言をお願いいたします。

〔参加者〕

私は愛育会の会員をしております。

中学生と小学校5年生の子どもがいます、まだ子育て中ですけど、子どもたちもだいぶ大きくなりました。

自分が子育てをしている頃は、支援をしていただいたとか、そういう感覚は全然頭の中になかったんですが、今は子育て中のお母さんのところに出産祝いのガーゼを届けながら、ちょっと一歩ひいた立場でお話をする機会が持てるようになりました。

〔知事〕

じゃあ定期的にそういう子育てをするお母さん方の所に行っているいろんな話をしたりするという・・・。

〔参加者〕

はい。今月は河西区で赤ちゃんが何人生まれましたよと教えていただいて、お祝いのガーゼを持っていってお話を聞いています。

お母さんの様子を探るというわけではないですけど、様子を見て、心配な方がいればそれを役場のほうに伝えるという役です。

〔知事〕

通常保健師さんなんかがありますよね。

〔参加者〕

それをまず私たちが先に聞いて保健師さんに・・・。

〔知事〕

伝えるわけですね。

〔参加者〕

そうすると保健師さんが上手にそこに行ってくれますので。そして顔見知りになることによって、またどこかで会った時に声を掛けたりして、そうやって繋がりを持つのが愛育の仕事ということで活動しています。

〔知事〕

河西区というのは割と人口が多いですけど、子育てというところのどのくらい、やっぱり幼稚園ぐらい、保育園ぐらいまでですかね。

〔参加者〕

そうですね、赤ちゃんのところにまず行っています。

〔知事〕

じゃあ1歳、2歳ぐらいまでですか。

〔参加者〕

本当に数カ月くらいの赤ちゃんです。でも子育てを少し離れてから赤ちゃんをだっこさせてもらおうと、かわいくて気持ちが良いくて懐かしくて、役員の方たちもひさしぶりに赤ちゃんをだっこして、いい思いをしたと言ってくれます。

〔知事〕

別の地区も同じように活動しているんですか。

〔参加者〕

そうです。私が担当する地区は西条2区なんですが、昭和では一番広い地区です。

最近アパート、マンションがすごく増えまして、お祝いのガーゼをお届けするのも本当にアパートとかマンションが多いんですよね。

やっぱりお訪ねすると他県から来たご夫婦とか、周りに支援していただけないご夫婦がおりますので、少しでも伺って声を掛けて、子どもさんの様子とか、産後のお母さんの様子をお聞きすると、何かほっとするらしくて、地域でできることで何かお助けできることがあればお手伝いしたいと思って活動しております。

そのほかに愛育では、夜の青少年の愛のパトロールとか、地域のお祭りのお手伝いとか、高齢者の転倒防止のお手伝いとか、そういうことをいたしております。

〔知事〕

そうですか。ご苦労さまですね。

よくこういう会で色々お話をしておりますと、ファミリーサポートセンターとか、色々な子育てクラブ、子育ての組織とか、そういう所に出てきてくれているお母さん方はいいんですけども、なかなかそういう所に出てこれない人も多くて、そういう方はどうですか。

〔参加者〕

私どもがカーゼをお届けすることによって、そういう支援がありますよということをお伝えすることもできるんですよね。

〔知事〕

お伝えしてね、そして引っ張り出してきているんですね。ちょっと引っ込み思案の方というのは出にくいですよ。でも出てみると、ああ非常に良かったとみんな思っているんですけどね。

〔参加者〕

よそから来た方たちはどうしても・・・。

〔知事〕

親戚とか、そういう方がいませんからね。

〔参加者〕

そう、いませんから。もちろん町のいろんな制度を利用したりするんですけど、でも身近にいる私たちができることがあれば、何かお手伝いをすることがございませんかとか、担当者がおりますので何か言ってきて下さいということを伝えております。

〔知事〕

西条には外国人の方なんかも結構いると思うんですが、どうですか。

〔参加者〕

最近は多いですね。でもガーゼをお届けするとご主人も一緒にお家にいる時もあります。一緒の会社でお休みの時はご主人がお手伝いをしてくれるとか、言葉の問題でも日本語が使えない方は余りいらっしゃいませんよね。

ただそういう方たちのために何か支援してあげたいなという気持ちにはなります。

〔知事〕

そうですか、大事なことですね。ご苦労さまですね。

〔参加者〕

私は先ほど言われたように甲府から引っ越してきました。昭和町は子育てに関して充実していますので選んだということもあります。

やっぱり私も核家族で、子どもと主人と三人で暮らしています。主人のほうの実家も、私のほうの実家もちょっと頼れないというところがあって、引っ越してきた当時は不安だったんですけど、西条の児童館でお母さんたちと話をしたり、知り合ったことがきっかけで、家から出るようになりました。

車がないので出掛けるといっても公園とかなんですが、ほかの所に比べて近場に児童館などが多いので助かっています。

〔知事〕

昭和町は山梨県の中でも子育てに対するいろんな手当をしている所ですよ。確かにそういうところは立派なものだと思いますね。

そうすると西条の児童館に集まられて、そこでいろんな交流をしたりとか、子どもを遊ばせたりとか、しているわけですね。

児童館というのは割と近くにあるんですか。

〔参加者〕

そうですね。歩いて行ける距離なので・・・。

〔知事〕

じゃあまさに子育てをしておられるわけで、その子育てをしているお母さんを助けているとか、そういうことじゃないんですね。助け合っているわけだ。(笑い)

西条の児童館は割とうまくいっているんですかね。母親クラブというんでしょうか。大体週1回ぐらい集まっているんですか。

〔参加者〕

毎日です。

〔知事〕

毎日集まって、そして色々交流したり。

〔参加者〕

そして色々子育てについて話したりとか、あともこういう集まりがあるんだよとか・・・。

〔知事〕

ちょっと私買い物に行ってくるから子どもを預かってねとか・・・それはしない(笑い)。

そうですか。

そちらの方、いかがですか。

〔参加者〕

子どもは援助するほうです。子育て支援のファミリーサポートセンターは12月で3年になります。ここの3人が今日出させていただいたんですけど、それぞれお子さんを家でお預かりするんです。

〔知事〕

自宅で。

〔参加者〕

はい。私は車が運転できませんので家へ連れてきていただくんです。去年は607時間お預かりしました。

お預かりしたお子さんが、お母さんの実家に行った時に、「昭和のばあば」はこういうふうにしてくれたと自慢をしたそうです(笑い)。本当に預かった冥利に尽きます。

〔知事〕

まあしかし神経は遣いますよね、人のお子さんですから、ちょっと自宅で何か転んでけがしたら大変だと思うし・・・。

〔参加者〕

命をお預かりしますからね。

〔知事〕

ずいぶん神経を遣われるでしょう。

〔参加者〕

でも子どももよくしたもので、やっぱりよそに来ているという気持ちがありますし・・・。

〔知事〕

余りバタバタしないですか。

〔参加者〕

そうですね。私の家は非常に狭いものですから、飛び歩いて廊下ですべって転んでも、怪我もありませんし。孫の年齢が近いものですから、使ったおもちゃもそっくり使えます。

〔知事〕

しかしお一人でやるのは大変ですからね。ご主人が手伝ってくれるんですか。

〔参加者〕

いいえ、一人です。私、保母の経験がありますから。

子どもも良くしたもので、よそに来ているという感覚はちゃんと持っていますから。そこは遠慮があるんですね。

〔知事〕

ファミリーサポートセンターというのは、預かるのは何歳までですか。

〔参加者〕

ファミリーサポートは0歳から、小学校に入っても具合が悪くて学校を休む時なんかには、ママが勤めなので見て下さいということもありますから、年齢制限というのはありません。

〔知事〕

ないですか。しかし人様のお子さんを預かるというのは大変なことですね、本当にご苦労が多いと思うんですけど、しかしそれだけにまた楽しみもおありでしょうね。本当のおばあちゃんより昭和のおばあちゃんのほうがずっといいとかね（笑い）。

〔参加者〕

そんなこともないんでしょうけど、それでもそんな気持ちですよ。自分の孫と同じ感覚で・・・。

〔知事〕

それだけ神経を遣われるから、子どもも良く分かるということですよ。

〔参加者〕

育て上げたあとですからね、今はもう76歳になりますし、ちょっと経験もあって、お母さんとも子どもとも心が通じるところもあるし・・・。

お母さんたちも多分おばあちゃんの家には預けるような気持ちでいるんじゃないですか。

〔知事〕

ありがたいことですよ。

ここのお二人ともそうですか。

〔参加者〕

そのほかに昭和町では子育てボランティアの会というのがあります。その会を通じても昭和町の子どもたちの支援をしております。主に児童館の支援をしております。

〔知事〕

児童館でね、なるほどね。じゃあ奥さんのところはお自分の家で預かったり、同時に児童館に子育てするお母さんが来たら世話をしたりとか・・・。

〔参加者〕

そういうこともあるんですけど、児童館の先生方のサポートということで土曜日に交替でお手伝いをしたりしています。皆さんの子どもさんを家で預かって、私も経験がありますが、それこそ家族一丸になってお預かりします。

〔知事〕

本当に大事なことですよ。

こちらのファミリーサポートセンターの依頼会員の方はどちらにおられますか。どうですか。

〔参加者〕

私は、今お話のこちらの・・・。

〔知事〕

昭和のおばあちゃんにね。

〔参加者〕

お世話になっているんです。

私の場合は、主人はこちらの出身なんですけど、私は県外から嫁いできたものですから、

自分の親はこちらにいませんし、主人の母もちょっと高齢だったりするので、長時間子どもを預けるというのがなかなか難しいんです。最初の頃はお願いしたりしていたんですけども、やっぱり大変だったりして、その時にご近所でよくファミリーサポートを利用されている方からすごく助かるよなんていう話を聞いて、それで飛び込んでいったんです。

初めてお願いした時は、2、3日後にどうしても預かっていただかなければいけない用事があったんですけども、すぐに対応していただいて、それからはほとんど毎週のようにお願いしています。本当に助かっています。

〔知事〕

それは良かったですね。

隣の奥さんもですか。

〔参加者〕

うちは上の子が3年生で、下が2歳です。本当は間にあと一人欲しかったんですけど、なかなかできなくて。周りにも最近子どもが欲しいけどできないという人が多いんです。私もちょっと病院にも通った時期があったんですけど、そういう面で最近昭和は手当が出ているようで、そういうこともどんどんしていただくと・・・。  
精神的に悩んでいる人も10人に一人ぐらいいるらしくて、でもなかなかそういうことは言いづらいというのがありますね、ちょっと恥ずかしいというか。精神面の支援というのも大切なのかなと思います。

〔知事〕

そうですね。

奥さんも依頼会員なんですか。

〔参加者〕

はい。私も県外から参りました。主人も県外出身で、全く分からない状況でまだ数カ月の子どもと一緒に去年引っ越して来たんですけども、その時に私が病気で急きょ病院にかからなければならなくなってしまったんです。どうしようかと思っていたらファミリーサポートがあるよということを聞いて、次の日に病院に行かなければならない状況だったんですけども、直ぐに対応していただきました。

〔知事〕

今ファミリーサポートセンターは、依頼があればもう100%すぐ受けられるような体制ですか。会員さんは多いんですか。

〔参加者〕

役場に事務局がありましてね。申請すると、初めての方は事務局の方も交えて面接するんです。



〔知事〕

なるほどね。やっぱり相性があるんでしょうか。

〔参加者〕

そういうことでもなくて、やっぱり近いとか、そういうところを。そして事務局でそれなりに受けてくださるんですね。

〔知事〕

割と問題なくうまくマッチングしているんでしょうかね。

〔参加者〕

今日もここが終わって帰ったら、こちらのお子さまをお預かりします（笑い）。預けるほうも預かるほうも、本当に自分の家のおばあちゃんの所に来るような感覚で・・・。

〔知事〕

大事なことですよね。

ほかはどうですか。大体いい話が多いんですけど、中には色々ご不満や問題もあるんじゃないかと思いますが。（笑い）

〔参加者〕

私もファミサポに依頼しています。私も県外出身で、4歳の上の子を仕事の関係で増穂の保育園に入れています。下の子は今2カ月です。下の子をこちらで産んだ時に、実家の母に来てもらったんですけど、母親も自分の家のこともあるのでしばらくして帰ったんです。その時に保育園の送り迎えを増穂まで往復1時間、まだ1カ月に満たない子どもを炎天下の中連れていかなきゃいけないのかなと悩んでしまって。ファミリーサポートは一人目の時は知らなくて使ってなかったんですけど、昭和町ではPRもすごくて、産まれたときからチラシをもらったりして知っていたので、じゃあと思って電話をしました。明後日母親が帰るということで電話をしたんですけど、すぐに対応してもらって、それからもう毎日のようにお願いしています。

今2カ月目に入るんですけど、毎日朝と夕方1時間ずつ来てもらっていて本当に助かっています。

ファミサポがない地区も結構多いですし、中央市のお母さんに聞くと、あるけれども子どもが障害者になって、障害者手帳をもらって初めて知ったということで、余りPRしていないという部分もあったり。

昭和はいいと思うんですけど、昭和町だけではなくて（笑い）、ほかの市町村でも子育て支援が行き届くようにしてもらえたらいいなと思います。

〔知事〕

昭和はいいですよ。そうは言っても昭和と他の市町村との差が余りつかないようにしなければいけませんね。

〔参加者〕

自分自身がすごく助かっているので、子どもが大きくなって手が掛からなくなったら、援助会員になって助けてあげたいなと思います。やっぱり経験しなければこういう気持ちは全然起こらないし、自分とは無関係だと思ってしまうので、是非ほかの町にもこういった制度があると・・・。

〔知事〕

そういう市町村の格差の問題ですね。

〔参加者〕

先程愛育の方がおっしゃっていたように、子どもを見てもらうだけじゃなくて、子育てを経験した母さんの意見を聞いたり、悩みを伝えられたりもできます。専門家じゃなくていいと思うんですね。保育士さんとか保健師さんとか専門家じゃなくても、子育てをしてきたお母さんの言葉だったら、先輩の意見ということですからすごく身近に感じられるので、そういった方と交流が持てる場をもっと県でも提供してもらえれば・・・。

〔知事〕

そうですね。よくそういう関係で、交流の場を提供したりしてやっている人や、NPO法人なんかもあるんですが、場所がなかなか借りられないということをよく聞きますけど、そういうことはあるんでしょうかね。

〔参加者〕

でも児童館がありますから・・・。

〔知事〕

児童館があるといいですね。昭和町は児童館が整っているんですね。

〔理事〕

昭和は全体的に充実していますよね。

〔参加者〕

ただお喋りできればいいですよ。

〔参加者〕

昭和町の依頼会員が、8月現在で291人です。援助会員が65名。それから両方、さきほどおっしゃったように、今は依頼しているけど子どもを育て上げたら援助会員になりましょうなんておっしゃってくださる会員さんが10名いらっしゃいます。だから全部で366名で対処しています。

〔参加者〕

今日も実は違う会場でファミサポの勉強会をしているんです。

〔知事〕

それは援助会員の人たちの勉強会ですか・・・。あ、両方の。  
いかがですか。何でも結構です。

〔参加者〕

私は西条児童館を利用しています。一番上の娘は21で、次が高校3年生、下に来月3歳になる子どもがいます。小さい子ができてみて、上の子たちの時に比べて本当に子育てがしやすくなったと思っています。上の子たちの時は児童館に行くのは小学生だけで、小さい子が利用できるということがなかったの、遊ぶところを探すのも大変だったんですけど、今は毎日児童館で遊べて、お母さん同士でお話できたり、先生に相談できたりしてとても助かっています。

いろんな手当の面とか、そういうこともやっぱり今のほうが充実していますし、医療費も窓口無料化にもなったし。本当に上の子たちの時には手当もこんなに出なかったけどと思いつつ、産んでみないとこういうことも分からなかったかななんて思っています。

〔知事〕

そういう政策は充実してきているでしょうね。  
窓口無料化もずいぶん充実していて、昭和町は小学校6年まででしたね。

〔皆で〕

そうです。

〔知事〕

それは助かりますよね。

〔参加者〕

本当に助かります。書類を出さなくてもいい(笑い)。小さい子を連れていけると書類を書いて役場に持っていくのは大変な時もあったので、窓口無料化はとても助かります。

最近は小さい子を連れて出歩くことも多くなって、うちは家族でヴァンフォーレのサッカーをよく見に行くんですけど、小瀬のトイレはそういう対応がなくて。今、割とベビーベットがあったりとか、広いトイレでおむつが替えられたりできる所が増えていて、そういうことに慣れてきたせいもあるのか、小瀬のトイレが・・・。

〔知事〕

おむつを替えるような台とか、そういうものがないんですか。

〔参加者〕

ないんです。スタジアムに入る前の所に障害者用トイレがあって、そこには椅子があるから、そこを使えばいいんですけど、1回中に入っちゃうとそこまで行くのが大変なので、スタジアムの中のトイレをもうちょっと何とかしていただけたら助かります。

今ちょうどおむつが取れる時期なので、二人でトイレに入るんですけど、狭くてちょっと大変ねなんて言いながら入っています。今はトイレも広くなったり、ベビーベットがあったりする所が多いので、そういうことに慣れてきたせいか、あのトイレはちょっと大変だななんて思っています。結構赤ちゃん連れの人もありますので。

前は県の管理だったけど、今は事業団に変わっていて県じゃないからどうなのかなとも思うんですけど。

〔知事〕

だけどそういう改築は県がやらなければいけないわけですからね。それは早速検討するようにしましょう。

〔参加者〕

小さい子が多いけど、みんなどうしているんだろうなんて。

〔理事〕

見について参ります。(笑い)

〔参加者〕

ありがとうございます。

〔知事〕

そうですね、それは大事なことです。台なんかがあるような広いトイレがあるといいですね。

施設というのはだいたい男性が設計しているから、女性の目線で出来ていないんですね。そういう指摘は貴重ですね。ありがとうございました。

何かいかがですか。子どもさんを育てておられて、急に夜具合が悪くなって飛んでいかなければいけないとか、そういうこともありますでしょう。そういうことは余りないですか。健康ですね、みんなね。

〔参加者〕

私は「おひさま」という絵本の会に入っています。今1歳と3歳の子育てをしているんですけど、この会は同じようなママたちが会員になっていることもあって、お互い助け合ってその時間内で絵本を作ったりしています。私、自分でベビーマッサージ教室のセラピストをしまして・

〔知事〕

ベビーマッサージ教室セラピストなんですね。ベビーにマッサージするんですか。

〔参加者〕

はい。ママが赤ちゃんにマッサージするという教室をしているんです。ママたちも第一には教室を目的に来るんですけども、そこを通じて交流を持ちたいという方も多いです。

ですから教室以外の会を開催して下さいというふうに言われるんですけども、先ほどおっしゃったように、場所の確保が本当に難しくて。公共の場所でもちょっと料金が高くなってしまったりするので、子育て中のママが使用する時はちょっとサポートしていただいたり援助していただいたりするといいなと思います。

〔知事〕

借りようと思えば児童館の一室を借りられるでしょう。

〔参加者〕

昭和町の場合だと昭和の方のみの利用であればということなんでしょうけれども、色々な地域から集まるので、そういう場合はやはり小瀬とか、そういう所を利用しています。町の児童館も、町外者が集まるサークルでも利用できたらいいかなと思います。

〔知事〕

原則町民の皆さんということでしょうからね。いつも小瀬とか、そういう所を利用するんですか。

〔参加者〕

そうですね。教室自体は昭和町にあるんですけど、教室以外のところで交流を図りたいという希望が本当に多いですね。県外から来ているママたちが多くて、最初はどこに出掛けたいか分からないということもあって、赤ちゃんを対象にした教室に来るんですけど、やはり教室なのでお金が掛かりますよね。ずっと続けるということよりも、交流の窓口を持ちたいという希望もすごく多いなと感じています。

〔知事〕

そうですね。場所の問題がありますね。  
後ろの奥さん、いかがですか。

〔参加者〕

私はここをよく利用するんですけども、やはり最初はちょっと来づらくて、どうしようなんて思っていたら、たまたま予防接種でお隣に座ったお母さんに、こういう所があるから一緒にどう？と声を掛けていただいて、それから毎日のように利用するようになりました。ここで先輩のママたちに相談して「大丈夫よ」と言ってもらえると、どんな育児書を見るよりも安心します。

〔参加者〕

わたしもここをいつも利用させてもらっています。うちは3歳になる娘と小学2年生の娘がいて、上の子は学童でここを利用させてもらっているんですが、近くて、きれいで、皆さんに良くしてもらっているので、とても助かっています。

お願いしたいのは甲府駅のことなんですが、上り方面のホームに行く階段に、下りのエスカレーターを付けてもらえると助かるのでお願いしたいと思っています。

〔知事〕

東京行きのホームに行く階段に下るエスカレーターですか。そうですね、あちらはないですね。

〔参加者〕

荷物もあるので子ども連れだと大変なんです。

エレベーターでも構わないので、そういうふうにしていただくと観光客の方も助かると思いますし、私たちも助かるので。

〔理事〕

東京側にはないんですね。反対側の竜王方面に向かう方にはあるんですけど。東京側にも付けてほしいと。

〔参加者〕

そうです。便利じゃないかなと思うんです。東京とかに行っても、今はエスカレーターやエレベーターが必ずついているので、山梨でも付けていただければ観光の人も助かると思うので・・・。

〔知事〕

そうですね、甲府駅も下りのエスカレーターをね。

〔参加者〕

甲府の駅ビルのエクランのドアも、下の入口が自動ドアじゃないんです。荷物を持っていると開けられないんです。

〔知事〕

エクランのドア、そうですか。

〔参加者〕

結構ドアが重いんです。ベビーカーを持って子どもをだっこして荷物を持ってとなると大変で・・・、ドアを押そうと思うんですけど、なかなかベビーカーを押しながら入ることができなくて、いつも通りすがりの人にすみませんと言って押ししてもらいます。

[知事]

確かに重いですね。風が強くても簡単に空かないようになっているんでしょうけど、まあ自動になっているといいですね。駅ビルの方に言ってみましょう。

[参加者]

昭和町の保育園のことなんですけども、私は3歳の子どもがいるんですが、今3歳の子どもの数が多いということで保育園になかなか入れないんですね。近いところだと昭和保育園があるんですけれども、そこもいっぱいですし、昭和町内の保育園はどこもいっぱいで入れず・・・。

[知事]

3歳児の場合はいっぱいなんですか。

[参加者]

年回りだと思うんですけどもちょうど3歳がいっぱいで。その一つ下と一つ上は空きはあるんです。本来は来年から入るという年なんですけども。

ずっと探して、甲府市で一カ所たまたま空くからということで急ぎよ入れてもらったんです。

[知事]

3歳児保育というのはやっていますけど、まだ待機児童がいるんですかね。

[児童家庭課長]

3歳児未満の待機児童はないと思うんですけれども・・・。

[参加者]

年齢によって子どもの数も多かったり少なかったりするもので・・・。

[知事]

きっと段々需要も増えてきているんでしょうね。

[参加者]

そうですね。働くお母さんたちが多くなって、3年保育、4年保育が多くなってきたと思うんですけど、なかなか枠がないと言うんですね。新しい保育園ができるという話も聞いたんですけども。

[知事]

課長、新しい保育園はできるんですか。

[昭和町福祉課長]

申請が上がっています。

〔参加者〕

でもできる頃には幼稚園に行っている。(笑い)

昭和町の保育園はいいという噂が多くて、甲府市のお母さんたちでも、通勤途中に昭和町の保育園に預けている人が多いので、昭和町内の子どもたちが入れないこともあるんです。だからと言って子どもが多いときは保育士を増やして、少なくなれば、はい減らしてという訳にもいかないと思うんですよね…。なんかうまい方法があればいいんですけど。

昭和町は保育料が安いので、やっぱり安く預けた方が…。

〔知事〕

よその市町村は原則的には入れないようになっているんでしょう。

〔昭和町福祉課長〕

広域入所ということで他町の方も受入れをしています。逆に昭和の方でも甲府で預けたりとか、それは広域入所という形でやっていると思います。

〔参加者〕

できれば近いところに預けたほうが、例えば子どもが病気になったような時でも、歩いて行けるような所であれば…。

〔知事〕

3歳児保育の待機児童が多いというのは初めて聞きましたね。昭和町がいいからみんな来るんでしょうね。

隣の奥さん、いかがですか。

〔参加者〕

私は5ヶ月の子どもがいます。ファミリーサポートの依頼会員です。

実は私、ちょうど臨月の時に転んで肩の骨を折りまして、折ったまま子どもを産みました。産んだのは埼玉県なんですけど、その1カ月の子どもを連れてここに越してきました。折った時期も悪かったので、手術もできずにそのまま自然治癒で治すしかなかったんですけど、リハビリに通って腕を動かせるようにしなければならぬということで、ファミリーサポートの手続きも、私が入院している時に主人が全て調べまして、主人が申込みをしました。訪問活動をしっかりされているということもありまして、援助をして下さる方を決めていただきました。

これはちょっと病院の話なんですけど、昭和町ではリハビリの施設がないんですよ。今は週に1度石和まで行って、理療学士の先生に付いてリハビリしています。

〔知事〕

まだ腕が自由に伸びませんか。



〔参加者〕

だいぶ動くようになりましたが、今は固まっているところをほぐしているところです。これは稀なケースですけど、整形外科を多くして下さいという・・・(笑い)。

あと、今日はファミリーサポートさんにお礼が言いたいということと、私は今まで仕事をしてきた人間で、主婦の目、子どもを持った親の目で世の中を見てなかったんですが、今日ここでお話しを聞いて、児童館にデビューするのがちょっと楽しみになりました(笑い)。

〔知事〕

まずはリハビリでしっかりと肩を治して下さい(笑い)。そうでしたか、それは大変でしたね。

〔参加者〕

あと、私はまだ会社に籍を残しているんですけども、そこでは不規則な時間の仕事が多かったと思うんですが、延長保育をしている所が少ないかなと感じました。

ただ私の場合、職場は都内なので、復帰するのは難しいと思うんですけど、もし続けるなら遅くまで見ていただけるようなところを探すんですが、甲府に1軒だけ10時ぐらいまで見ていただける保育園があって・・・。

〔知事〕

延長保育はどうですか。平均的には1時間か、そこらですね。

〔児童家庭課長〕

7時から8時ですけど、甲府に1軒だけ夜間保育をやっている所があります。

〔知事〕

そうですね。確におっしゃるように1軒だけだそうです。

24時間見てくれるところがあるんですか。

〔児童家庭課長〕

無認可の保育所ですとあるんですが・・・。

〔知事〕

認可外の保育所ですね。これはお金がかかりますね。

〔参加者〕

都内に出て行くとしたら、という気持ちで見ると、駅のそばに、もっと長く預かってくれるようなところがあればという印象はあるんです。

[知事]

だけど通勤は大変でしょう。

[参加者]

ちょっと考えているだけなんですけど。私は会社が3年休めるので少し猶予があるんです。

[知事]

育児休業でね。3年のうちにはまたもっと良くなると思いますよ。

[参加者]

例えばそのお家に行って見てあげることもできますよ。実際にやりました。母さんがお産で体調を崩して、お子さんだけ先に帰ってきた時に、4人体制のスタッフで見てあげたことがあります。私は一日おきにそのお宅に伺って、朝8時から夕方5時にお父さんが帰ってくるまで、あとの3人も曜日と時間を決めて。お子さんが1歳になるまでそうしました。

昭和のサポートの事務局に行ってそういうお話をすればいろんな方法があると思います。お休みがある間にお話してみるといいと思いますよ。

[参加者]

ありがとうございます。

[参加者]

私も県外からこちらに来て3年弱になるんですけれども、元々横浜周辺に住んでいて、車を利用することはなかったんですね。でもこちらに来たら車がどうしても必要で、一台買い足しまして、やっと車二台使えるようになりました。でもまだ運転にも慣れないので、あまり遠くへは行けないんですね。ちょっと子育てとは違いますけど、もうちょっと交通の便をよくしてもらえたらなと思います。電車は無理にしても、せめてバスぐらい…。

[知事]

そうですね。そういう公共交通機関がもっと充実するといいんですけれども、バスも大体空気を運ぶことになっちゃうんですよね（笑い）。

しかしそうは言ってもやっぱり地球温暖化問題とか、ガソリンも高くなりましたし、公共交通機関を充実していかなければいけないですよ。

今は軽自動車を運転しているんですね。軽自動車を運転すると段々手放せなくなってきてバスなんかに乗らなくなるんですが、そういうことはないですか（笑い）。まあしかし、おっしゃるとおりだと思います。努力します。

[参加者]

私は2歳と、あと11カ月の娘がいます。二人を連れて買い物をするとなるとちょっと

大変なので、預かってくれるようなところが欲しいかなと思うんですけど。

〔知事〕

ショッピングセンターなんかには、リバーシティにあったでしょう。

〔参加者〕

そうなんです。リバーシティで以前30分だけ預かってくれるということがあったので、それは一度利用したんですけど、定期的にやってほしいなと思います。

〔知事〕

今はもうやっていないんですか。大体最近はショッピングセンターは託児所というのか、何か・・・。

〔児童家庭課長〕

まちかど応援団の事業でやったと思います。

〔知事〕

じゃあ常時そこでしているわけじゃないんですね。

〔児童家庭課長〕

そうではないです。

〔知事〕

ショッピングセンターもそのぐらいのサービスをしてもいいと思うんですよね。それはご不便ですよね。

〔参加者〕

二人連れて、カートも押してというのは大変なので。

〔知事〕

貴重なお話です。ショッピングセンターにもちょっとそういう話をしなければいけませんね。

〔参加者〕

私は公務員で、10月で6歳と4歳になる息子と、1歳の娘を育てています。今は3人目の育休中で、四月に復帰する予定です。上の子2人を3年半ぐらいの間に2人続けて産んで、そして1年復帰して、また3人目を産みました。

独身でアパートに住んでいる時代からたまたま昭和町に住んでいました。両方の両親を余りあてにできない環境ですし、仕事もちょっと大変ですけど、昭和町は色々な子育て支援があるということですので、ここで助けていただきながら、やれるところまでやってみ

ようということで、まあ何とか今のところもっているという状況です。

ファミリーサポートにもお世話になりました。最初は上の子が6カ月ぐらいの時に、育児教室で児童館の存在を伺って、ベテランのお母さんから「良かったよ」なんていうお話を聞いていたことがきっかけです。当時からの児童館の先生方にもすごくよくしていただいていますし、その時に出会った人たちに色々教えていただいたりして、お陰様でママ友が増えたかなと思いますし、保育園でもよくしていただいています。

保育園はちょうど（午前）7時から（午後）7時まで預けられるところに預けています。仕事に行くと大変なので今復帰に向けて心の準備をしているところです。

〔知事〕

復帰は来年の4月からですか。ああ、これはいよいよ大変ですね。お子さんが3人おられるんですね。見上げたもんですね。大したもんです。（笑い）

〔参加者〕

子どもは保育園でも見ていただけますし、今度の4月には長男が小学校に上がるので、学童も利用させていただきながら何とかやっていくしかないかなというふうに思っています。知事さんもおっしゃったように昭和町は本当に子どもに優しく、周りに助けてもらって感謝しています。

それで小学校に上がってからのことですが、学童は基本的には3年までですが、実際は2、3年生は少なくて。その頃になると、子ども自身も気持ちが外に向いていく時期になるんじゃないかと思うんですね。

近所の小学生で両親が共働きという子を見ていると、まあゲームに走るか、友達と遊びほうけるか、おじいちゃん、おばあちゃんがいれば習い事にも行けるかなというところで、私も送迎付きのスポーツでもさせたいなと思って、今始め出しているところなんです。

オリンピックにとまでは思いませんが、例えば福岡ですと、希望する子どもを集めて、ある時は水泳をさせてくれたり、ある時は野球をしたりしながら、この子が得意なスポーツは何かというように、親も気付かないところをサポートしてくれるような企画があるというのを聞いたことがあります。

私自身、土日も仕事がなかなか休めないものですから、子どもに何か経験をさせたいと思っても、親が付いていかなければ、親が送っていかなければとなると難しく、そうなればファミリーサポートにお願いしながらという事になると思うんですけど。

この小学校の中学年か高学年以降に、そういった企画、得意なことを見つける手助けみたいな企画があると素敵かなというふうに思っております。

〔知事〕

確かに、あれ福岡県でしたかね、モデル事業であるんですよ。要するにトップアスリートを育てるのは、小学校の小さい頃からトレーニングをやらなければいけないということで、その頃に才能を見出して育て上げるという、そういうことモデル的にやっているんですね、確かね。ありましたね。

〔参加者〕

私はスポーツに携わることが多いんですけど、もったいないなと思う部分もあるものですから。隣近所を見ている、この子走ったら早いなと思っても目が向かないというか・・・。

〔知事〕

公共スポーツクラブということですね。

例のサッカーくじというのがありますよね、あれを作る時にはそういう計画があったんですね。儲かるとそのお金を各市町村に配りまして、公共スポーツクラブを作って子どもたちをそこに集めてスポーツをしたりする、そういう施設を造ろうという計画があったんですがね。

ところがあまり儲からなくてですね(笑い)、しかしスポーツクラブも民間のクラブがたくさんあるから、公共のものを造るということになると民営圧迫にもなるし、特にスイミングセンターなんかずいぶん民間のものが出来ましたからね。

〔理事〕

今のお話を聞いていましてね、早いうちにその子の持っているものを見出したいというお気持ちはすごくよく分かりますね。

〔参加者〕

自分の子どもですから親が見付けなければいけないんですけども、親が忙しくて自分の子どもは置き去りになってしまったら、本当に仕事をしていて良かったのか悪かったのかということも考えてしまっ。

〔理事〕

確かにそういうことはありますね、勤めている親にするとね。自分はできないとしてもどこか他でね。

〔知事〕

ああそうかなるほどね・・・。どうしたらいいんでしょうかね。よく考えてみます。

〔参加者〕

私も子育てボランティアをしております。

15年頃でしょうか、各市町村で次世代育成支援行動計画を作りなさいというお話がありました。昭和町では700世帯にアンケートを出して、それを分析しながら計画を立てました。数値目標もちゃんと決めまして、年度末になりますとそれを集計して県へ提出していますよね。

それで私も含めてここにいる3人は一般公募でレポートを書きまして、その委員にさせていただきました。昭和町の次世代育成計画はすごいものだと思うんですけども、パンフレットを作って全戸に配布して、これを見ると今年度は保育園を何パーセント増やしましょうとか、数値も載っています。その成果を考えてみると、この児童センター「ゆめて

らす」と、県下でもまだ8つしかないそうですけれど、ファミリーサポートですね。今日も3時間にわたる研修をしているようですけど、昭和町はそういうきめ細かいことをしております。

昭和町には、押原小学校の隣に押原児童館、西条小学校には西条児童館、そして常永児童館というふうに、学校から5分で行ける児童館があります。集大成として児童センターが造られていることは大変ありがたく思います。昭和というのは本当に県下一だなと思いました。

私がボランティアをされていて、お母さん達に「あなたどこの出身なの」と聞くとみんな遠くから来ているわけです。

お母さん方にとって児童館というのは情報源でもあるんです。子どもってこうか、私だけ悩むことはなかったんだとか、それからママの心の問題とか、そういう面でもいいことづくめの児童館ですので、それがあつことを大変喜んでいます。

留守家庭学童保育のことなんですが、3つの児童館とも50人収容しているんですが、それでは入りきらなくて、大体1年生が70%ぐらい占めちゃうから、2、3年生は本当にひとり親家庭の子しか入れないという、そういう実態があるわけですね。

去年の場合だと、ここだけが定員割れでしたから、別の地区の子ども達をここに入れていました。親御さんもおかげで共稼ぎできましたと喜んでくれましたけれど。

児童館の設置主体は市町村ですけど、国県補助金というものもあるわけですよ。これ以上ぜいたくを言って誠に申し訳ないですけど、まだまだ入れない子どもがいっぱいいるわけですから、是非また方法を考えただいて、より豊かにしていただきたいと思います。

〔司会〕

大体一通りお話を伺いました。子育て支援のことが多かったんですが、もし他にもなにがございましたら・・・。

〔参加者〕

よろしいでしょうか。今日は知事さんはじめとして県の児童家庭課の課長さんもいらっしゃるし、理事さんもいらっしゃいますのでお願いしたいんですけど、男女共同参画の立場からもワーク・ライフ・バランスとか言われていますので、県の機構からそういう子育てのしやすい働き方を率先していただきたい。

私、私立の保育園にずっと勤めておりましたが、公立とお給料の差がすごくあるんです。以前も是正をして下さるようお願いしたんですけども、今子育て中のお母さんは保育園をすごく希望していらっしゃいますよね。ですから現場で働いている保育者にこそ温かい気持ちを持っていただいて、公私の差がないように、男性保育者もこの頃多くなってまいりましたので、生活が成り立つような給与体系を、もう一度県としても考えていただきたいと思います。

〔知事〕

私立の保育所はそんなに安いですか。

〔参加者〕

安いです。

それから幸い昭和町は合併をしておりませんので、乳児検診でも歩いていける場所で、児童館でもやって下さっていますけど、合併した所では、今まで歩いて行けた乳児検診に乳飲み子を乗せて車で行かなければならないと聞きました。

それからひとり親家庭の支援、外国籍の子どもの支援ということも色々問題になっております。

もう一つ、食育の授業を児童館ですておりますけれども、聞けば昭和町のように児童館がある所が少ないんだそうです。それには驚きましたけれども、各町村に児童館、午前中は乳幼児を持つお母さん、午後は学童保育ができるようなシステムの児童館が各市町村に必ずあるようにご配慮をお願いしたいと思います。

〔知事〕

ありがとうございました。

〔参加者〕

今新聞やテレビなんかで県立病院の問題も出ていますけれども、子育て支援や、ひとり家庭に対する医療の問題はどのようにお考えになっているか知事さんにお伺いしたいのですが。

〔知事〕

今は子育て関係ですと、乳幼児医療の窓口無料化を全県的にやっています。昭和町は小学校6年生までですが、市町村によっては乳幼児までとか、就学以前の子どもとか、それはそれぞれ違いますが窓口無料化が一つあります。

それから子どもを育てているお母さん方が、例えば夜とか休日、病院が閉まっている時に駆け込めるような駆け込み寺ですね。小児初期救急医療センターというのが甲府にありますから、病院が閉まっても、お盆でも正月でも夜間でも、そこに行けば必ず小児科のお医者さんがいるという体制ができています。

それからこの間も新聞に出ていましたけれども、山梨県の場合には、県立中央病院に総合周産期母子医療センターというのがあります。ここには常時何人かの優秀な産婦人科医がいますので、危険な状況でも、そこに行けばきちっとした手当をするというようなことになっています。周産期の母子の死亡率は日本でも一番低くなっているわけです。医療の問題はそんなところでしょうか。

ただ子育て支援のための、児童館とか、保育所の延長保育とか、そういうことに関しては、県の補助制度もあるんですけど、市町村の考え方もあってばらばらなんですよね。昭和町は非常に進んでいますけど、まだ意識が低い市町村もありますね。そういうところをもっともっと普及していかなければいけないですね。

〔参加者〕

ありがとうございました。

〔参加者〕

先ほどから聞いていて、昭和町は児童館も充実しているという事で、ありがたいなと思っています。

ちょっと贅沢な話なんですけど、私の主人の実家は長野県の諏訪のほうにありまして、そちらに子どもを連れて行くと、必ず子どもの城という所に行くんです。そこは3歳児までの専用の遊び場になっていまして、年間登録料は2～300円、使う時に毎回料金を払います。ここの倍ぐらいの広さで、寝る所や、みんなでご飯を持ち込んで食べる場所もあって、一日中遊べるんですよ。

児童館もいいんですけども、乳幼児は午前中だけですので、子どもが午前中眠ってしまったから午後でかけようかと思っても、午後は学童保育の時間ですので、一日中いつでもいいですよという所があるととてもありがたいなと思います。

ちょうど夏休みが終わったんですけど、夏休みの間は学童の子どもも来ていて、まだ歩けないような子はちょっと危ないかなと。安心してゆっくりと遊べる場所があるといいかなと思います。参考にしてもらえるとありがたいです。

〔知事〕

子どもの城って聞いたことがありますか。

それはどういうものですか。長野県独自の施設ですか。

〔理事〕

おっしゃったような施設が、国立で東京にあります。その長野県版だと思います。長野県はその国立の子ども城を見習って造ったものかもしれないですね。

〔参加者〕

登録料は各市町村でばらばらで、毎回100円とか掛かる所もあるんですけど、それぐらいだったらいいかなと思って通っているんですけど。

〔知事〕

よく研究してみないといけませんね。分かりました。ありがとうございました。

〔司会〕

ではお時間もそろそろ経過しておりますので、知事さんからまとめをお願いします。

〔知事〕

今日は皆さんありがとうございました。それぞれ子育てにご苦労なさっている方も、子育てを支援しておられる皆さん方も、一生懸命なご様子でありまして、大変嬉しく感じたところです。

また貴重なお話も幾つか聞かせていただきましたので、これから県の行政を進めていく



上で参考にさせていただき、実現できるものは実現していきたいと思っております。

皆様方どうかこれからも体に気を付けていただき、子育てをしっかりと、あるいはお母さん方をしっかりと支えていただきますよう、よろしく願いいたします。

今日は皆さんありがとうございました。

〔皆で〕

ありがとうございました。(拍手)

〔理事〕

すみません。最後に皆さんにお知らせを。県立科学館の一画に、子どもが楽しめる児童館のような場所がありますので、是非一度行ってみたいと思います。

〔司会〕

まだ色々言い足りないこともあると思いますが、気が付いたことがございましたら、県の児童家庭課や、あるいは町を通してお伝えいただきたいと思いますと存じます。

今日はありがとうございました。